

学校だより 8月号

令和6年8月21日(水)

「誇・光・力」 錦江中!



オリンピズムとは

校長 平國 弘明

夏休みも残すところ10日あまりとなりました。ここまでどのような毎日をご過ごせただしょうか。

さて、日本の獲得メダルが自国開催を除けば、過去最高数45個(金20,銀12,銅13)

となったパリオリンピックも閉幕し、その盛り上がりも一段落ということころでしょうか。評判通りの強さを発揮した選手・競技があれば、オリンピック独特の雰囲気や海外勢の周到な対策に合い、涙をのんだ選手も見られました。歓喜の涙も感動しますが、敗者の涙にも強く、心を揺さぶられるものがありました。フェンシング、男子フルールの団体で活躍した松山恭介選手の言葉を借りれば、「誰かが勝てば、誰かが負ける」当たり前のことですが、非常に深い意味があると感じました。今大会では、



NHK HPより パリ五輪閉会式一場面

特に敗者への気配りや敗者が勝者を称える姿をこれまで以上に目にしたように思います。近代オリンピック創設に尽力したクーベルタン男爵提唱のオリンピズムを感じずにはいられませんでした。一方、戦時下大会とも言われ、国際紛争への対応の在り方や性別問題などが取り沙汰され、オリンピズムから大きく遊離した一面もありました。大会期間中にあったクーベルタン男爵の子孫にあたる方のコメントにおいては、「争いが起こるのは、一方的なものの見方だったり、コミュニケーションが不足していたりすることが要因である」というものがありました。まさにその通りだと思います。

加えて、選手やチーム関係者に対する誹謗中傷が問題となりました。試合を観て、個人的に感想を持ったり、述べ合ったりすることは自然なことだと思います。ただ、それをSNS等で不特定多数の人に伝え、関係者を傷つけるような事はやはりあってはならないことです。勝者と敗者が互いに国を背負い、真剣勝負を行い、競技を盛り上げ、大会を成功に導いたわけですから、すべてのオリンピックや大会関係者が讃えられるべきです。

これに対して、今回もオリンピックの言葉やコメントに深く考えさせられものがありました。短い言葉の中に、様々な想いが凝縮されています。中でも、私が一番印象に残ったのが、卓球の早田ひな選手の帰国後の会見です。その中で、鹿児島県の知覧特攻祈念会館を訪問し、「生きていることを、そして自分が卓球をこうやって当たり前に行っているということは、当たり前じゃないというのを感じたい。」と語りました。私たち一人一人が、自分自身の命や生き方、世界の安寧のためにどう行動すべきかを考えなければならないと改めて思うことでした。

オリンピズムとは

オリンピズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである。その生き方は努力する喜び、良い模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする。

オリンピズムの目的は、人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指すために、人類の調和のとれた発展にスポーツを役立てることである。

オリンピック憲章 オリンピズムの根本原則 より

○パリオリンピック雑談

Imagine / John Lennon & Yoko Ono

Imagine there's no Heaven
It's easy if you try
No Hell below us
Above us only sky
Imagine all the people
Living for today...

Imagine there's no countries
It isn't hard to do
Nothing to kill or die for
And no religion too
Imagine all the people
Living life in peace

You may say I'm a dreamer
But I'm not the only one
I hope someday you'll join us
And the world will be as one

Imagine no possessions
I wonder if you can
No need for greed or hunger
A brotherhood of man
Imagine all the people
Sharing all the world

You may say I'm a dreamer
But I'm not the only one
I hope someday you'll join us
And the world will live as one

パリオリンピックとイマジンと聞いて「あれか」と理解している皆さんも多いと思います。オリンピックも残すところあと数日、女子ビーチバレーボールの決勝戦、ブラジル対カナダ的一幕です。

金メダルをかけた試合は白熱し、試合終盤には両チームがネット越しにお互いを非難し合う場面も。審判も間に入り、落ち着かせようとはしますが、お互い収まらない様子がテレビに流れていました。

この場面で機転を利かせたのが、場内の盛り上げ担当のDJでした。

アップテンポな音楽を流すと思いきや、スローバラードなジョン・レノンの“イマジン”を場内に流したのです。

ゆったりとしたピアノの伴奏とささやくようなジョンの歌声に、場内の雰囲気は一変します。観客は音楽に合わせて合唱し、選手たちの表情にも笑顔が戻ります。一呼吸置いて審判の笛が鳴り、試合は再開します。

ジョン・レノンの「イマジン」は「平和を切に願う歌」です。「みんなと手を取り合って素晴らしい世界を創っていききたいな」と訴える歌です。

さらにすごいのは、選手が興奮しているあのタイミングでイマジン流すDJのセンス、それに即座に反応する観客、会場の雰囲気に対応する選手、そしてテレビ画面を通して一連の流れを理解できる大勢の視聴者がいることです。

ほんの一時ですが、イマジンという曲を通して世界の人と同じ気持ちになった、そんな気持ちになれた時間でした。天国でジョン・レノンもガッツポーズとまではいきませんが、ニヤリと笑みをこぼしたかもしれません。

○お知らせ

前号でもお知らせしましたが、9月1日に、PTA奉仕作業を実施します。詳細については、8月1日の出校日に案内を生徒便で配布していますので、ご確認ください。

9月2日から二学期が始まります。2日の登校バスは一学期と同様の通常どおり、下校バスは11:30と16:30の2便になります。

また、9月の部活動下校バスが18:30となり、一学期より若干早くなります。お知りおき下さい。